

政策1 経済の安心を生み出す

政策2 教育・子育ての安心を育む

政策3 福祉・健康の安心を築く

政策4 暮らしの安心を支える

政策5 行政の安心を営む

令和3年12月24日 総合計画審議会・行政改革懇談会
二次評価【資料1参考資料】

【二次評価】

（総合計画評価）

		合計	内訳				
			政策1	政策2	政策3	政策4	政策5
① 現行の進捗状況で目標の達成が可能か	可能である	107	12	14	17	46	18
		86%	92%	93%	77%	90%	75%
	困難である	18	1	1	5	5	6
		14%	8%	7%	23%	10%	25%

【担当課による一次評価の傾向】

①「現行の進捗状況で目標の達成が可能か」について、「困難である」18項目のうち14項目は、新型コロナウイルス感染症の影響によると考えられます。特に「政策5 行政の安心を営む」が6項目（25%）、「政策3 福祉・健康の安心を築く」が5項目（23%）となっており、市民参画や行政サービス、スポーツや地域福祉の分野において、現行の進捗状況で目標の達成が「困難である」割合が高くなっています。

②「年度計画に沿って事業が進んでいるか」について、「遅れている」19項目のうち15項目は、新型コロナウイルス感染症の影響によると考えられます。特に「政策5 行政の安心を営む」が8項目（33%）となっており、市民参画や行政サービスの分野において年度計画よりも事業が「遅れている」割合が高くなっています。

・一次評価で「困難である」、「遅れている」とされた施策の多くが、コロナ禍で人を集めて実施する事業等が中止や延期になったことが要因と考えられる。特に子どもや女性、生活困窮者への様々な影響が懸念されるので、幅広く適切な対策に取り組まれない。

・市民アンケートで「そう思う」または「ややそう思う」と回答をされた市民の割合が高かった3項目は、「馬のまち」の認識、「地球にやさしい」、「安心して子育て」であった。良い評価の施策はより伸ばしていただきたい。また、否定的な回答を今後どのように活かしていくかが重要である。

・市民アンケートで「今の場所に住み続けたい」という定住意向が70%を切っている。これは、居住のための都市としては気にかかることである。コロナ禍の一番厳しい時に取ったアンケートで、福祉や健康分野等では低い評価になりがちであるが、全体として市民の評価が上がっていないので、アンケートをきめ細かく分析し、それぞれの施策・事業に役立てられたい。

・人口や世帯を増やす取り組みを行い、魅力ある住みよいまちを目指していただきたい。

（行政改革評価）

③ 経費の節減に努めたか	努めた	125	13	15	22	51	24
		100%	100%	100%	100%	100%	100%
	努めていない	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%

③「経費の節減に努めたか」について、「努めていない」とする項目はありませんでした。

④ 「公的関与の基準」に照らして市が実施すべき事業か	実施すべき	125	13	15	22	51	24
		100%	100%	100%	100%	100%	100%
	実施すべきでない	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%

④「公的関与の基準」に照らして市が実施すべき事業か」について、市が「実施すべきでない」とする項目はありませんでした。

・一次評価では「努めた」、「実施すべき」が100%で、できていない施策がないということだが、市民アンケートでは前回から下がっている数値が多い。職員と市民の意識の間にギャップがあるのではないか。自己採点するときに厳しく見るべきである。

・中長期財政見通しでは、昨年より状況が改善しているが、今後も引き続き行財政改革の推進に取り組まれない。